

それでも僕たちは 「濃厚接触」を続ける!

—世界の感触を取り戻すために—

広瀬浩二郎【著】

(国立民族学博物館准教授)

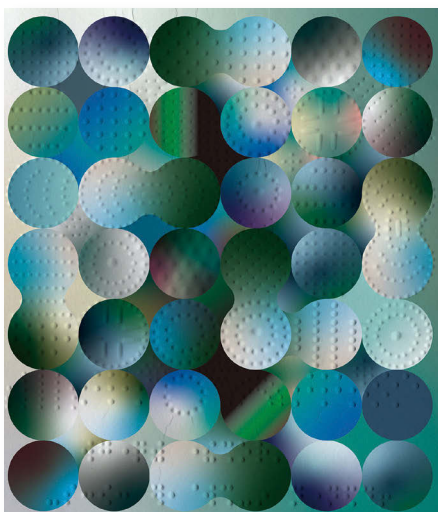
「濃厚接触」による「さわる展示」・「ユニバーサル・ミュージアム」の伝道師として全国・海外を訪ね歩いてきた全盲の触文化研究者が、コロナ時代の「濃厚接触」の意義を問い直す。

5月～7月に公開されて反響を呼んだweb連載を大幅に加筆。

- 国立民族学博物館所蔵の世界の資料60点を、紙上展示「世界の感触」としてカラー掲載。
- 点字印刷の技法による「触図」を利用した、さわって楽しめる表紙カバー

B6判・162頁/定価 1,650円(税10%込)

2020年
10月27日
刊行



それでも僕たちは
「濃厚接触」を続ける! 広瀬浩二郎
世界の感触を取り戻すために

カバーデザイン 桑田知明

本文より

——単純にとらえるなら、一連のコロナ騒ぎは、さわる文化の危機ということができる。

しかし、そもそも接触とは何だろうか——

——近代化の「可視化＝進歩」の過程で、人類は濃厚接触のマナーを忘却してしまった——

——展示物の背後には、それを創り、使い、伝えてきた人びとの文化、目に見えない物語がある。なぜさわるのか、どうさわるのか。

新型コロナウイルスの流行は、現代社会が濃厚接触のマナーを取り戻す契機となるに違いない——



国立民族学博物館前庭のトーテムポールを触察する著者

■ご注文方法■ 小さ子社の書籍は、最寄りの書店・ネット書店で注文できます。

- (1) 書店へご注文 このちらしを書店にお渡しください。
- (2) 小さ子社ホームページから、直接ご注文いただくこともできます。
(クレジットカード使用可) 右QRコードをご利用ください。
- (3) 下記注文書の備考欄にご連絡先をご記入の上小社にFAXまたはメール・お電話
→折り返し振込先をお知らせいたします。先払い・送料別途(1冊送付の場合300円税込)

小さ子社HP
本書詳細
ページへ



注文書 FAX 075-708-6839 メール info@chiisago.jp

鍛谷書店扱い 鍛谷書店を通じ、日販・トーハン・楽天BNなどの帳合書店にお送りします

発行：小さ子社

[書店名・番線印]	冊数	それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける！ —世界の感触を取り戻すために— 定価：本体 1,500円(税別) ISBN978-4-909782-06-9 備考・お客様情報・客注番号など
	冊	
	ご担当者	
	ご注文日	



布の皺を取る道具。
表面を叩いて光沢を出す。
持ってみると、ずしりと重い。
これで叩けば皺も伸びそう。

染色用 棒
セネガル共和国
長さ: 40 cm
直径: 13.5 cm



酋長用 椅子
コンゴ民
座面幅: 40 cm
高さ: 40 cm

66

第一部 写真集「さわる世界旅行」

1人1人が何をしているの
かを探ると、座るのを忘れ
て楽しめる。

重い
硬い
暖かい
ごちゃごちゃ

中止になった
幻の2020年 国立民族
学博物館企画展「みてわかるこ
と、さわってわかること」より、
民博所蔵資料 60 点をカラー写
真で紙上展示。著者の触察
コメントを付す。

好評を博した小さ子社
Web サイト上での連載
(2020年5月～7月)に加筆。
コラムなど新たな文章や、著者
による撮り下ろし「射真(写真)」も掲載。

[コラム1] バードカービング—世界をさわるツールとして

ウォッチングからバードリスニング、さらにバードタッチングまで、鳥もいろいろ、聴く鳥は味わい深く、さわる鳥は自然とともなう。意味を僕たちに問いかける。
は早起きして、この原稿を書いている。真夏は暑くて仕事がつらいが、たまに早起きすると、朝の静寂と涼しさの中、頭が冴える。僕は、多種多様な鳥の声で朝を感じている。鳥の鳴き声と名前を付けられることができれば楽しいだろうが、僕はそこまでの風流人ではない。でも、鳥はいつも僕に優しく語りかける。「さあ、早く宿を片付けて、元気よく出かけようぜ」。
国立民族学博物館(民博)では継続的にバードカービングを収集・展示してきた。狩猟用のおとりであるデコイをルーツとするバードカービングは、今日では鑑賞目的の木彫作品として欧米等で親しまれている。

■ 目 次 ■

はじめに一さわる文化と新型コロナウイルス

第一部 写真集「さわる世界旅行」

1 人生にさわる六つの手

2 紙上展示「世界の感触」

〔コラム1〕バードカービング—世界をさわるツールとして

第二部 「ユニバーサル・ミュージアム」への道

第1章 海外出張は体外出張なり

〔コラム2〕ボイス・コンタクト—感じて動く読書法

第2章 「生き方＝行き方」の探究

〔コラム3〕写真を移す人

第3章 「禍を転じて福と為す」新たな博物館構想

おわりに—ポストコロナの特別展に向けて

2 紙上展示「世界の感触」

67

な娯楽・学びを万人にもたらすツールということもできるだろう。

2006年にはスズメ、カラスなど、身近な鳥のカービングを収集した。カラスの全身を手ひで確かめた来館者は、一様にその大きさに驚く。一方、指先を介して、小さなスズメにシンパシーを抱く人が多い。09年には、「日本の象徴」ともいわれるトキのカービングを購入した。トキの保護活動に関連するニュースはマスコミでもしばしば取り上げられるが、その姿を間近で見る、ましてさわる機会はほとんどない。タッチカービングを通じて、僕たちはトキの肉付き、顔や翼の細部をさわって知ることができる。「トキって、ずんぐりした鳥なんだ」。触覚に基づく意外な発見が、ウォッチングやリスニングでは得られない鳥に対する親近感を生み育てるのは確かだろう。

19年、民博のバードカービング・コレクションにダーウィンフィンチ(5体)が加わった。今を「生きている」鳥の実像のみならず、過去から現在に「生きてきた」、そして未来へと「生きていく」鳥の歴史と多様性を伝えるのがダーウィンフィンチの役割といえる。ダーウィンフィンチをも含む民博所蔵のすべてのバードカービングは、21年開催の特別展「ユニバーサル・ミュージアム」の関連企画で公開される予定である。生きている、生きてきた、生きていく鳥たち。特別展が、そんな豊かな生物の世界に触れる場になれば嬉しい。僕はタッチカービングが「ユニバーサル＝誰もが楽しめる」特別展の精神を具現するシンボルになると確信している。



広瀬浩二郎(ひろせ・こうじろう)

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。01年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部・准教授。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み、「触」をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。『目に見えない世界を歩く』(平凡社新書)、『触常者として生きる』(伏流社)など、著書多数。